

「1・17メッセージ」応募用紙

月日経つのは早いもので、もう10年になるんですなあ〜。僕がまだ小学5年生で11歳になったばかりで、誕生日の2日後の事でした。現在は、大手前大学の3年生で就職活動の真っ最中です。

10年経つと町の様子だけじゃなく、僕たちの生活スタイルも変わってしまっているんだなあ〜とつくづく感じてきます。先日起きた新潟地震も10年後には新潟県全域同じようにがらりと変わってしまうんでしょう。

このように、形では表せない歩んできた道のりまたは、これから歩む道のりをこのひょうごメモリアルウォークで歩く道をそれらに例えて、実際に歩いてみる、踏みしめてみることに、意義がある、思いや願いが込められている。と、僕は思います。

この道を歩くと、殆ど人はきっと今まで生きてこられた事の幸せ等を身に沁みて感じるだろう。

“ほら、前を見て御〜覧 あれが僕らの未来〜” だよ。

(お名前) タグチ マナブ

(年齢) 20 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

阪神淡路大震災の被災者として10年間ずっと
全国からの支援をいただいた感謝の気持ちと同時に
ガス、水道が2ヶ月以上とまった苦痛などは誰も理解
してくれないだろうと不満の気持ちをずっと抱えていま
いたが10月の新潟県地震で気持ちが変わりました。
阪神地区は社会資本が整備されていた都府県で早く
元気づけられたのにくらべて、新潟では自然の破壊に
より孤立した集落が多く発生しSOSを発信する
ニュースを見て
私達も感謝の気持ちとずっと一忘水杯にしようと思
いました。

ふりがな お名前	澤田 律子	年齢	72才
ご住所	都道府県 西宮 (市) 郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

地震から10年がたつていいます。もう大分前の事と思い始めていた頃には新潟の大震災を見、あのころの事か思い出さされました。家の中はクチャクチャでゴミポットにス～3杯も食器を捨てました。ゴミの収集場はあつとあり中子ゴミでいうより山か～とんどん大きくなり午のつけられない状態でした。その時、他県のゴミ収集車か来てくれ、またはい、さわりのも嫌なよじなゴミと黙々と運んで下ろしていら姿か目に焼きついていります。遠い県かりの車もあり後姿に午を合わせられたる思い出でした。兵庫県の今日の復興は日本中の皆様の支えかあったか、出来たものと心か感謝致しします。今回被災された方、どうか頑張ってください。

ふりがな お名前	マツノカミ 松岡 真知子	年齢	53才
ご住所	兵庫県 都道府県 西宮 市・郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

ぼくは、8才です。ぼくが、10才い上だったら、
 はんしんあわじ大しんさいにあって、生きているか
 わかりません。ぼくが、1996年に生まれていて
 うれしいです。

ふりがな お名前	マツ ^{キョウヘイ} 松本康平	年 齢	8 才
ご住所	矢野 都道府県 西宮 市・郡		

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	明石市兵庫都道府県 明石 (市) 町・村		
フリガナ 氏 名	正井 貞子 (70歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

震災から10年 毎年参加 今年も又記念周年をマークに参
ります。

「1・17メッセージ」応募用紙

私は、震災で息子を亡くしました。家族を失ったものにとって、この10年をこれだけの枠で思いのすべて綴ることはできません。でも、なかなか伝えられない思いを伝えられたらと思って参加させていただきます。突然、息子を失った私は、一生、人とかかわったり笑ったりすることができないと思っていました。そんな閉じこもった私をそっと見守ってくれていた多くの友達。つき命日にお庭に咲いていたからと、ちいさなアレンジを作って持ってきてくれた友達。カステラを焼いたから食べてと持ってきてくれた友達・・・などなど。ここでは、書ききれないほどの多くの友達がしてくれたのいろんな事が今よみがえってきます。あるとき、10年前の悲しみに埋もれていた私の周りにいてくれた友達が、「あの時、本当は、お線香を上げさせてもらおうと思ってインターホンを押したんだけど、あなたの辛そうな顔を見ると、そのことがどうしてもいい出せなくて、そのまま帰ったんだよ」て話してくれました。あれから10年、やっと生きていこうと心からそう思えるようになりました。私の笑顔を見て「元気そうでよかった」と言ってくれた、あの時のみんなの思いを心から感謝できるようになりました。そんなみんなと無理をせずにとくさんの笑顔で過ごすことができるようになりました。息子へのいろんな思いは、一生消えることはいないけれど、その思いと一緒に生きていく決心ができました。そんな、元気な私を今でも遠く離れた所で心配してくれているたくさんのお友達に伝えたいと思います。本当に本当にありがとう・・・。

(お名前) たかいちづ

(年齢) 43

(住所) 兵庫県西宮市

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫県西宮市	市・町・村	
フリガナ 氏 名	徳島 輝彦 (67歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

あの当時の頑張りを今も持ち続けたい。今後の元気
を皆人に迷いの掛からぬ様に過ごして行きたい!!

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

あの日の朝...何が起ったのだらう、遠くへ猫が泣いている...赤ちねんの泣き声...老人の記憶の中で気が付いた、それは助けを求めるとの事だった。身体を起こそうとしたが身体が動かない、その時揺れが来た、その声「ジャスト」ニと大きな音と共に自分がとぼとぼとたのたど気が付いた。急いで起き上がったとしたが重くて身体が動かない、布団は着ていた。少しづつ身体を動かしてぬけた。真暗で足を動かしただけでガタガタとタンスの倒れでどこに足を置けばいいかわからない、半ズボンと靴をはきおいて、ボーンとしていた。助けを求めるとは頼んでいる、誰の事?...私も助けたいから...時間が過ぎたのだらう表で歩いた、森本工人は一人暮しの一人の事が聞えず思わず「森本はいま可...」と叫んでいた、外からは窓開けられぬ内側から窓を割れと叫ぶのは必死の思い...どこに足がつかないのか、外に出て二はどうしたの何が起ったのこの光景は何と家具の山を乗り越え脱出しどこか誰かが分らずに抱きついてくれた、助けを求めるとは頼んでいる、隣りの娘さんの声だと聞きとれた、助けてあげて...首で助けてあげよう。お願い助けてあげてと叫ぶ、道具がないから消防隊が来るまで待たせ打水は任せられないと文をくれた、でも助けを求めるとは頼んでいる、男性の一人が車の中か何かを指して来た音が無言の内にわかちあっていた、助かった、娘さんは私に抱きついたでも歩けなかった、誰かが戸槌を貸して下へと呼び「タニカ変りして病院に皆で運んだ、片母さんは後で助けをくれたが父さんは亡くなった、...」

数日後の娘さんとの再会息子も死なずに探して来たくれた、街角での再会はまるでスリッパの音の響き、命でも助けてあげてくる、命に感謝

ふりがな お名前	おれおとみこ 森本美佐子	年齢	68才
ご住所	両国市	都道府県	市・郡

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「 1 . 1 7 メ ッ セ ー ジ 」 応 募 用 紙

兵庫県庁の職員です。これまでメモリアルウォークでは、参加者の誘導等でお手伝いをしてきましたが、10年目にあたる今回だけは、あの日を思い出しながら、是非自分自身で歩きたいと思い、参加しました。

震災後、何日か経過した後、全国から駆け付けていただいた警察官と一緒に、避難所を巡り、被災者がお困りの内容を災害対策本部に連絡する業務をしていました。

変わり果てた町並み、打ちひしがれた人々の顔は今も心に焼き付いています。なんとしても助けたい。街を復興したいという熱い気持ちを思い出します。

10年という月日が流れ、ややもすると風化しそうな当時の心境。街を歩きながら今一度、自分自身を振り返る。

(お名前) 池村 和己 (イケムラ カズミ)

(年 齢) 54 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府県	西宮 市・町・村	
フリガナ 氏 名	栗本 美佐子 (68歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 1 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)震災から10年、5年目に復興住宅に入居する事が出来、感謝の気持ちと涙を流したこの地域の絆を、又我々がこのボランティアで出来る事は進んで参加させて頂き、人と人との関わりを大切に出来ない。15知を自分の足で被災の時を思い浮かべ、歩け、歩くとがんばってみたいと思っております。

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

95.1.17当時は豆腐・油揚げ・製菓小売を生業としていて家屋及び製造装置等が壊滅的な破壊状態となり廃業を余儀なくし至途方に暮れました。兎に角と思ひ市役所に出掛けて罹災証明をもらいに
 行方時に職員さんが大変な中でも丁寧に対応してくれてほんとほした。暫くするうちに生活支援金の支給をされて大変嬉しい思いに
 させられ感動を覚えた事を記憶しています。
 4月からスーパーマーケットの清掃の仕事に行き様になりましたが給料が少なかったので96'2月からは施設警備の仕事に転職し
 5年間程度ほし氏が自営の仕事で52才迄働いてきた小生にはは勤め人の仕事に馴染みにくく胃潰瘍になり58才の時に辞めて以来妻のパートの収入による生活費を賄うに遠く江戸時代の庶民の生活を思つて現在の小生の身分を考へて出来るだけ不用品物は入手し様様に地球の資源の浪費にばらない為には又環境にも配慮する為にも)とそんな事を考へつつ人生のあと一步の成長を待ちつつ生活しているのが現状です。

ふりがな お名前	にし 西	おか 岡	まさ 正	たか 隆	年齢	62才
ご住所	兵庫		都道府県	西宮	市郡	

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

阪神、淡路大震災の10年を振り返り見て大変な体験をしたなと思
 います。災難は何時時やってくるかわからなると言いますがその通りです。
 でも私達だけではなく多くの人達も被災しているのでがんばらなと思ひました。
 今では西宮市も最も被害の多かつた所ですが道路はある程度きれい=整備
 され、駅近にはきれいなビルやマンションが立ち並んでいます。一方各地の茅葺
 今まで一軒屋が二軒や四軒になっている所が多く見受けられます。
 私方でも二世帯住宅です。二階が私の弟家族。一階が母と同居です。
 家業が市場内での製造小売業で母親、姉と私の弟2人の5人程で営んでい
 いました。この地震で一変しました。市場は崩壊し家業は止めざるを
 得ませんでした。市場の一部の人達は市場とショールームの後に建てられた
 1階と2階が店舗で3階以上が住宅になっている店舗に入居しました。こ
 それ程賑わっていません。さびしく思います。私も大体の後片づけも終り仕事を
 見つけ就職は出来な仕事で気苦者も多かつた様です。5年半で2ヶ月
 私もパートで働かれていますので家事や母親の面倒を見つれています。この地震で
 金銭的には打撃でしたが、精神的と身体的には余裕が出来結果的
 にはよかったと思っています。最後に被災に皆様方の暖かい支援をうれしく思
 います。有難うございました。お返しに今年の新潟、中越地方の被災者の方
 への義援金を差金させていただきます。17日新聞が4られたらと思います

ふりがな お名前	にし おの ち いし 岡 知子	年 齢	59 才
ご住所	兵庫 都道府県	西宮	市 郡

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府県	西宮	市・町・村
フリガナ 氏 名	ヤマザキ シンゾウ 山崎 淳三 (58歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

大きな破壊力と多大な被害をもたらした大震災。あの日から10年経過した。長く暮らしている町が安全で安心して暮らせる町に最善策で元気に復興してもらいたいと今でも願っています。完全に復興が実現されたいと思います。また今後も不文律での政治、短絡思考、政治、社会的公平性のない政治や完全犯罪の成立する杜撰な政治にならないため、基本法を順守した実感のある不安感のない改善をしたいと思います。あの「1.17」の大事件は人生の教訓として深く長く記憶に残ると思います。

切り取り

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫県 都道府県 西宮 市・町・村		
フリガナ 氏 名	ホノミズキ 多田見茂子	(67歳)	参加総人数 (申込者を含む) 1人

※2人以上の場合に記載して下さい。

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

忘れてはならない犠牲者のごと
ボランティアや行政への感謝、又起るかも知れない天災

切り取り

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)	(1)15キロコース(西宮市役所) (2)10キロコース(芦屋・川西運動場) (3)2キロコース(王子公園)		
	(4)10キロコース(県立文化体育館) (5)5キロコース(大倉山公園野球場) (6)追悼式典会場		
住 所	兵庫 都道府県 西宮 (市)・町・村		
フリガナ 氏 名	高橋美枝子 (64歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

震災から早 10年経過しつとしていけず、あのつらかった事を
いふのを忘れがたしつと思ひます。

郵送・FAX用 1.17ひょうごメモリアルウォーク2005・ボランティアスタッフ 参加申込書

住所	〒 西宮市	TEL FAX	
連絡先 (住所以外)	〒	TEL FAX	
フリガナ 氏名・年齢	太田真澄 (20歳)	性別	

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。) 十周年 更に防災への関心を。

■希望する活動内容 (いづれかに○印をお付け下さい。)

- スタート地点・休憩所の受付
 ア 西宮市役所 イ 芦屋・川西運動場 ウ 王子公園 エ 県立文化体育館
 オ 大倉山公園 カ 住吉川東緑地 キ 都賀川公園 ク 職員会館
- 沿道での案内・誘導
 ケ 西宮市～HAT神戸 コ 神戸市長田区～HAT神戸
 サ HAT神戸
- ウォーク終点での受付

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

「生き抜く生命」

ドドン、グラグラ、カッパッ。たった10.3秒で、こんなにも思う痛もな
 と、瞬間に6,433人の命を奪われた引金となった/A17日、5:46
 この日から10年は長いと思えますが、あの日からの10年はアッという
 間でした。身内を亡くし、左足に後遺症のため産む事も出来ず
 心身症になった我々身も避難生活も災害ボランティア活動も経
 験しあの日から私の人生観もすっかり変わりました。
 人にはお世話になる耳命ですが、5年間(西宮は仮設住宅5年間)
 の災害ボランティア、又大切な命の灯びとなるローソクの祭典(伊丹昆
 陽池公園)のボランティア10年、この朋りを済ませる。様々にはか
 かんばかりだと思えます。
 せっかく授けられた尊い「命」何よりも勝る大切な命、自分の手で守
 り抜く。かむしやりに生き抜きたと思えます。
 若く皆様の生きぬいて下さい。たくましく生きて下さい。
 強く優しく生き続けて下さい。自分の命を大切にすれば人は相
 手の命の大事にする人です。
 ボランティアで病いから直った私です。余生もボランティア一筋続け
 たいと思えます。

お名前	長岡 照子	年齢	78 才
ご住所	兵庫 都道府県	西宮 市郡	

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「1.17メッセージ」応募用紙

まだ、元の生活に戻っていない方もいます。その方々に応援を忘れないようにしたいと思います。この10年ですいぶん震災の思いが風化したのではないのでしょうか。

(お名前) シングウ カンジ

(年齢) 62 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「1・17メッセージ」応募用紙

10年一昔とありますが、震災は昔にはいけない。今年は特にいろいろなことがあ
った。台風に地震・・・

(お名前) 野田 辰夫 (のだたつお)

(年 齢) 42 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「 1 . 1 7 メ ッ セ ー ジ 」 応 募 用 紙

もう10年も先の事だったのだと同時にまだ10年しかたっていないのか？あの貴重な体験を次代の人たち、特に若い人たちに伝えるのが自分の義務かなと人と未来防災センターでボランティア活動に参加しています。あまり大袈裟に考えず、肩に力を入れすぎずに若い人たちが少しでも災害非常時の助け合い、励まし合いが大切かを分ってもらえればと頑張っています。

元気なうちは出来るだけ続けていこうと思っています。それが震災でなくなった人への供養と生きの延びた人間の勤めだと思っています。

(お名前) 岡田 康博 (オカダ ヤスヒロ)

(年 齢) 62 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「 1 . 1 7 メ ッ セ ー ジ 」 応 募 用 紙

10年前の思いを共有する仲間と、一つのイベントをとうして、お互いに励ましあえたらとの思いで参加することにしました。多くの皆さんと出会うことを楽しみに参加いたします。

(お名前) 宮野 勲 (ミヤノ イサオ)

(年 齢) 64 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

「1.17メッセージ」応募用紙

6400 余名の尊い命を奪ったあの忌まわしい阪神淡路大震災から 10 年を迎えようとしている。当時、私は芦屋浜シーサイドタウンの 24 階建て高層マンションの 2 階に妻と子供 2 人の家族 4 人で暮らしておりました。また、徒歩 15 分の宮塚町の文化住宅の 2 階には実母(当時 74 歳)が独りで暮らしておりました。平成 7 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、暗闇の中、ドドドドーン、床から突き上げてくる激しい揺れ、「きゃー!、なにこれ!、子供!、子供!、子供!」横に寝ていた妻の発狂しそうな大きな叫び声でした。私は、布団をかぶり妻の体に覆い被さった。ガラガラガラと音をたてて、整理タンスが布団の上に倒れてきた。寝室を飛び出しリビングに行くとき子供二人が呆然と立っていた。家族全員ですぐマンションの外に飛び出したが、付近は液状化で砂山が沢山でき、道路は陥没し、ガスの匂いが立ち込めていた。余震が続く中、我を取り戻した私は、家族を外に避難させ、徒歩 15 分の母親宅に走って駆けつけた。途中、橋は壊れ、道路は陥没し、多数の家屋が倒壊し、また、国道 43 号線の上を走る阪神高速神戸線の橋脚が座屈していたのを、今でもはっきりと記憶している。母親の文化住宅に到着して見たものは、無残にも跡形もなく崩れ落ちた建物の残骸であった。私は、必死で何度も母親を呼んだが声がしない。午後 2 時過ぎ、近所の多数の方々のお協力のもと、崩れ落ちた建物の中から、一枚の畳の上に布団を掛けられた母親の遺体が運び出されてきました。顔のこめかみは陥没し、鼻はいがみ、体の硬直がはじまっていた。路上で待つこと約 2 時間、畳ごとトラックの荷台に乗せ、安置所となっている芦屋警察署の柔道場へ運びました。次々に遺体が運ばれてくる中で、母親は 28 番という数字と氏名・住所が書かれた白い紙を布団の上に貼り付けられました。検死の結果、圧死による即死と判断されました。ドライアイスも棺桶もない状態で 2 日程安置しました。その後、棺桶が到着し、芦屋警察署から自衛隊のトラックに棺桶を乗せ、ヘリポートとなったシーサイドタウンへ、そこで航空自衛隊のヘリコプターに乗せて京都の東山斎場へ運ばれていきました。飛行機にも乗ったことのない母親がはじめて空を飛んだのは、惜しくもこのヘリコプターでした。翌日、母親は小さな遺骨となって芦屋市役所に帰ってきました。当時、芦屋市では震災で斎場が壊れ葬儀が出来ないため、数週間してから妻の実家(茨木市)の近くのお寺で葬儀をあげました。棺桶もなく、遺骨だけでした。私達と一緒に暮らしていたら、助かったのにと残念でしかたありません。今でも思い出すと涙がとまりません。ただ、私達家族と兄弟姉妹全員が無事であったのは、亡母親が身代わりになって助けてくれたんだと信じてなりません。この震災では、警察・消防・役所の方々をはじめ、遠くから駆けつけてくれた多数のボランティアの方々、勤務先である会社や会社の同僚をはじめ友人・知人等に大変お世話になりました。また、人間の財産は地位や名誉やお金だけではなく、人が一番の財産であることも教えてもらいました。これからも、人を大切に、亡き母の分まで強く生きていきたい。天国にいる亡母に合掌。

(お名前) 熊本 清

(年 齢) 54

(住 所) 兵庫県西宮市

ひょうごメモリアルウォーク 2005に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「1.17メッセージ」応募用紙

前にも夫とスタッフをしましたが、10年の節目となる今回もトライしてみようと思います。

(お名前) 葉山富美子 (ハヤマフミコ)

(年齢) 50 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

ひょうごメモリアルウォーク 2005 に
参加申込み頂いた方からのメッセージです。

「 1 . 1 7 メ ッ セ ー ジ 」 応 募 用 紙

前にもやりましたが、またやってみようと思います。

(お名前) 葉山康彦 (ハヤマヤスヒコ)

(年 齢) 50 歳

(ご住所) 兵庫県西宮市

い	多	く	の	人	を	助	け	出	し	た	十	年	経	つ	た	今	も		
あ	の	人	が	け	と	隣	保	め	入	ら	す	が	声	を	掛	け	合		
く	び	つ	て	い	た	あ	そ	に	お	こ	に	こ	にも	生	き	埋			
り	よ	う	に	足	が	嫌	ん	だ	=	階	が	落	ち	一	階	が	無		
上	外	に	出	て	び	つ	く	り	し	た	あ	ま	り	の	変	わ			
家	外	に	出	る	の	が	大	変	だ	ら	か	そ	の	以					
子	夫	婦	の	声	が	南	に	の	助	け	本	さ	れ	た	小	さ	い		
と	鬼	っ	て	い	る	と	こ	お	母	こ	ん	お	母	さ	ん	と	息		
も	う	思	い	残	す	二	と	は	以	い	夫	の	所	に	行	け	る		
し	三	人	の	子	ども	も	私	の	手	元	か	う	業	立	つ	た			
も	う	二	水	で	終	わ	り	か	も	四	年	前	に	夫	を	亡	く		
が	ス	の	よ	う	改	臭	い	か	し	て	き	た	私	の	人	生	も		
夫	の	女	く	郵	け	び	い	そ	の	う	ち	い	こ	か	う	か			
で	何	と	か	扱	け	出	そ	う	と	体	を	動	か	し	た	か			
下	敷	に	た	つ	た	播	か	少	し	弱	ま	つ	た	よ	う	た	の		
を	感	じ	布	田	を	被	つ	た	か	家	具	が	倒	れ	て	ま	て		
何	が	起	こ	つ	て	い	る	の	か	分	か	う	た	い	ま	ま	危	険	
た	音	と	同	時	に	大	き	な	揺	れ	寝	て	い	た	私	は			
	ド	ー		ド	ー	ン	と	地	の	底	か	う	突	き	上	が	る	よ	う
	一	・	一	七	は	忘	れ	た	い										

あの日のごとく鮮明に蘇り、忘れないうち

「1.17メッセージ」応募用紙

省略

きりきりになり申し訳ありません
別紙の資料を送ります。よろしく

二見裕子

ふりがな お名前	二見 裕子	年齢	75才
ご住所	兵庫 都道府県	西宮	市 郡

あれから十年！ 明るい未来を構築しよう

西宮市建石町 二見 治子

直下型マグニチュード7.2の大地震で阪神間が壊滅状態になって早や十年です。

あの時すぐ世界中に発信されスイスに留学していた娘は、スイス災害救助隊が日本に出発した事、ここには、「人道的救援局」と「スイス災害救助機関」についてレポートがFAXが届き、日本も「災害救助システムを創る事を進言していました」

この十年は私にとって人生のでき事が圧縮された様な十年でした。

|| 大切な人たちの死 ||

家屋の下敷きによる死・類焼による焼死・その後、義母、実母の死・共に婦人会、消費者活動をしてきた友人の死などそれぞれの方との思い出が懐かしく思い出されます。

|| 大地震その後 ||

我が家の南は西宮西高校で避難所になっていました。夜間高校なので教室にストープがありみんな助かりました

* 自治会長代行としてお世話をさせて頂き、人生いろいろ、人もいろいろ、大変勉強になりました。

* みぎわ園が、町のひとり暮らしの方三人受け入れて下さりとても助かった事

* 出雲の大社町より来られて、ひとり暮らし、老人世帯を優先で大まぐるを目の前でさばき千二百名の刺身弁当を振舞って

下さった事

* 二月になり体育館に移動の時、校長先生にお願いして自衛隊が大阪から中古畳を運んで下さり、皆さんが少しは暖かく過ごせて喜ばれた事

* 避難者の運営委員さんが(半壊で住めないので避難していた)自宅の荷物をこっそりすべて盗られてしまい傷心の中、大阪の娘さんの所へ引越された

* 避難者と共に、毎日届く新鮮な食材で炊き出しボランティアをしていたこと

* 東京教職員組合や、ユニチカなど労組の方たちが五泊のローテーションを組み励ましてくださったこと

* その後西宮浜の仮設住宅400戸の運営委員として油野名運営委員長と共に難問題に取り組んだ日々、

* いかなぎ2百キロを婦人会として炊き上げた事、おかげでいかなぎが上手に炊ける様になりました。

|| そして新しい出会いが始まった ||

市内の復興は市民の団結力の良いところから、街の再建が実現していききました。市内の駅は大半が工事が必要でした。十年の迎え、弱者にやさしい街にリニューアルしています。

|| ふれあい交流サロン「もさく」発足 ||

より多くの世代が参加しやすいように公募して新しい形のグループが生まれました。地道に月二回集まって楽しい行事をしていきがいを作っておられます。

||二十一世紀は混迷の時代か?・||

二十一世紀に入り世の中が乱れてきました。BSEから始まって鳥インフルエンザ問題まで生産者から流通業界・小売業は勿論行政も消費者まで仕事に対する自尊心と倫理観を取り戻さねばあの震災の時、一致団結して多くの人を助け出して、手を取り喜びあつて涙を流した、

他人を思いやる心とエネルギーはどこへおいてきたのでしょうか。親の子殺し、子の親殺し、変質者による幼児誘拐殺人など信じられない事ばかり起こっております。

||明るい未来を創りだそう||

子は親の背中を見て育つといいますが。私たち人生の先輩たち次世代に人間としての基本的なしてはいけない事、社会のルールを行動で教えていく責任があると強く感じる昨今です。親育てを復習してお母さんと共に、子育てのお手伝いをしていくのがこれからの課題ではないでしょうか。

希望の持てる未来を共に創り出しましょう。

明日に向かって GO! GO!

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府県	西宮 (市)・町・村	
フリガナ 氏 名	大橋 由紀子(65歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

この日を忘れない。忘れなければいい。
 今年7月を忘れない。忘れなければいい。
 鬼を知らずに。忘れなければいい。忘れなければいい。
 この防災の都庁。兵庫県に00

「1.17メッセージ」応募用紙

震災当日、自宅で睡眠中の出来事。
すぐに外へ出たところ、近所の家屋が倒壊し、
生き埋めの方の救出をしていました。
妻のおなかには8ヶ月目の長女がおり、心配していましたが
現在、元気よく育っております。

勤務先、会社の建物が大きな被害を受け、大変でした。

現在、自宅周辺は8割ほど家屋が立ち、
平和な街並みになりました。
娘達は元気に小学校へ通っております。
会社は順調に復興しました。

今、思い出しても一番大変な日々でしたが充実した頃でした。
みなさんももう一度思い出し、前向きにまいりましょう。

(お名前) 寺田 智教

(年齢) 38

(ご住所) 兵庫 都道府県 西宮 市 郡

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

西宮市以外の市・町からの縮水車
の支援が当時、本当に助かり
ありがとうございました。

ふりがな お名前	岩崎 謙二	年齢	56才
ご住所	兵庫 都道府県 西宮 市郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

震災時に受けた、いろいろな人の優しさを
忘れずに、頑張ろうと思います。

ふりがな お名前	浮田 由紀	年齢	25 才
ご住所	兵庫 都道府県	西宮	市・郡

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

当時、私は小学校6年生で、自宅は大丈夫だったので、仲良しかった友達の家が全壊してしまい、その子の家によく遊びに行っていたので、とても悲しかったのを覚えています。

又、全国からボランティアの方々が助けに来て頂いたり、救援物資が送られてきたりして、人の優しさを感じました。今、各地で自然災害がおまていますが、少しでも役に立てば"と思い募金をしました。

お名前	近藤 美彩	年齢	21才
ご住所	兵庫 都道府県	西宮	市・郡

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)	
住 所	兵庫県 西宮市 町・村
フリガナ 氏 名	アサノ 野 藤 (75歳)
参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

L17メッセージ欄 (記入は任意です)

忘れたいけれど、思い出は、この一年
の、あの時の、思い出、心は、いつまでも、持ちたいもの
です。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等
(希望コースに○を
付けて下さい)

住所

兵庫 都道府県

西宮市 町・村

フリガナ
氏名

シイ井 恭子 (57歳)

参加総人数
(申込者を含む)

※2人以上の場合に記載して下さい。

人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

生きていることのありがたさ、命の大切さを学んだ。震災で、
お互いに助けあって生きていく、人間のあり方を、もう一度再認識した。

参加希望コース等
(希望コースに○を
付けて下さい)

住 所	兵庫 都道府県	西宮 市	町・村
フ 氏 名	松本直美	(39 歳)	参加総人数 (申込者を含む) 人

1. 17. 申込者 (記入欄は省略です。)

残された1717の
命を大切にしたい。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府(県)	西宮 (市) 町・村	
フリガナ 氏 名	上田海雅 (歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 1人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

早や10年か週り来て、新潟地震と相まって、感無量です。
あの頃は、我儘に戻ったと思ふことが多かったです。今何事も
なかつたかのような町が姿があります。世界中が大荒れの中
日々平穏を祈ります。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府県	田原 市・町・村	
フリガナ 氏 名	山田 理恵子 (44歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

高速で、スキーバスが止まっているのを映像で見ると、あの日、あのバスを見た時から
 子供らと共に茨木小の体育館に、行ってきた。今年、10年経つとは思えない位。
 数年前に休めたまま、その時の子供も今年、成人式を迎え、娘も高校1年生となっ
 ています。この時期はいつも暗くなるのが、今年が10年... 私達もやがて歳を重ねる様になりました。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)		
住所	兵庫県 西宮市	市・町・村
フリガナ 氏名	梅村 貞造 (75歳)	参加総人数 (申込者を含む) ※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

不幸にして亡くなった方々への鎮魂と、自分が現在
生かされていることへの感謝の気持ちを込めて歩きたい。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)						
住所	兵庫	都道府県	西宮	市	町・村	
フリガナ 氏名	黒田	名	荘一郎	(68歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

思い出は

くめとともみずとしえに

余震看了中

電話くれし次男 (南風)

郵便・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府(県)	西宮 (市)	町・村
フリガナ 氏 名	岸本 勉 計 亮 (65歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

利が最も全壊し平いに人命は皆助叫ました。
その後、再建有るに当り、兵庫のあつたに案内を肉し。
「全日統一の兵庫」を実現格市を提案し有。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫	都道府(県)	西宮 (市)・町・村
フリガナ 氏 名	山口 文子	(63歳)	参加総人数 (申込者を含む) 1人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。) 私の息と自分の為にカーセリングの勉強を始めた。その時に知り合った同期生の中の鈴木和子さんとお会いし、その方の家の岡山にあり、私は甲陽園の一角、お家の遊園地に行き、彼が教師のあんなか、今は洋裁を教習して居るらしい。(退職後) その子も、彼の家の下敷に泊りたくらい、彼等の自由で、その結果と思えば胸が痛む。これから何かお付き合いすると思っている。

メッセージ: 震災の時、励まされた曲・元気が出た曲

あれから10年！私は路線バスの運転をしています。

毎日運転席の窓から街の復興を見届け、早10年！

当時は道路はまともに走れないながら、冬の車内は暖房で暖かかったですが、

休憩所や自宅では水道やガスも震災から2ヶ月ほど不通でとても寒かったです。そんな中、自宅で毎日していた事がありました。

電気は来ていたので、TUBEのLIVEビデオを見ていました。

それも普通に見ているだけなら、寒くて体が震えるだけなので

テンションの高い、盛り上がってる部分を見ながら

一緒に部屋で振付をしながらかけて歌って汗をかいていました。

当時はみんな苦しんでる時だから、部屋で踊って楽しんでるなど大きな口では言えなかったのですが、10年経つ今では『TUBEの曲は寒い冬の暖房代わり、寂しい時辛い時の癒し薬、そして元気を出してくれるエネルギーソング』だと感じております。

被災したファンクラブの人へTUBEは激励メッセージとサインも送って頂きました。これもすごく心の支えになりました。

先日の新潟中越地震の被災地の避難所へいち早くお見舞いに駆けつけ、ミニライブをされた事は、同じ被災者としてもTUBEは素晴らしいと思います。

ありがとう、TUBEさん！

デビュー20周年の今年、なお一層のご活躍を期待いたします。

TUBE関西 BlueReef(ぶるり)うめたろ～@甲子園 <http://bururi.com/>

名前: うめたろ～@甲子園 (梅元博之: うめもとひろゆき)

年齢: 37

住所: 西宮市

メッセージ:もう10年経ちましたか。つい、昨日のように今でも思い出します。
神戸！世界一おしゃれな街、神戸！！神戸大好きです！
世界に向かって羽ばたこう神戸！！

名前:國村 真(くにむら まこと)

年齢:42

住所:兵庫県西宮市

メッセージ: こんにちは。

この正月に神戸のセンター街を歩いているだけでも、震災の事など本当に私の頭の中から消えていました。FMでこのメッセージ応募の広告を聞いて「ああ、10年が過ぎたのか」と当時の記憶をたどりました。

10年前の当時高校3年生の受験生だった私も、北海道での6年間の大学生活を経て、今は再び帰って来て社会人をしています。あの頃をあまり思い出さないのは、震災もあり、さらに個人的には受験で失敗して、意図的に記憶から遠ざけてしまおうとしているからかなあ、感じています。

でも、そんな私の寒い記憶の中に暖かいものが少しだけあります。それは「人や地域との連帯感」というものです。

夜はガラスは壊れ、壁もくずれてしまって冬の風が吹き込む家の中で余震におびえながら、ろうそくの前で家族で過ごす日々が幾日か続きました。本当に余震は恐かった。次に大きな地震が来たら死ぬかも知れない、という恐ろしい感覚です。でも「自分の家族やこのあたりに住んでいる人はみんな怖いんだ」と自分に言い聞かせて頑張りました。

昼は電気・水道・ガスの来ない家の前で近所の方々と無事を確認したり、あるいは御冥福をお祈りしたりしました。ある時は学校に水を汲みにいったり、炊き出しをもらったり。またある時は友人や親戚が壊れた道を歩いて来てくれたり。そんなときはとても不思議な「連帯感」を感じたものです。

震災の頃に戻りたいと思う事はありません。しかし、あの震災をふと思い出した今、決して口先だけではない、「暖かい人や地域との連帯感」を知ることができたのはとても貴重な経験だったと心から思います。華やいた神戸の街をみて、その思いを一層強くしました。

震災で亡くなられたすべての方に、心よりの御冥福をお祈り致します。

名前: 下田隆史(しもだ たかし)

年齢: 28

住所: 兵庫県西宮市